



「みる」ことから始める
わくわくドキドキ

梅雨明けから毎日続く厳しい暑さの中、子どもたちは、夏にしかできない水あそびを満喫しています。子どもたちは体温が高くなっても夢中で遊んでいるので、大人が声をかけながら活動と休息のバランスを調整したり、活動前後、活動中の水分補給などの熱中症対策をしっかりとっています。

町内放送で熱中症警戒アラートが発表されている日には、特に注意しながら、遊ぶ時間帯などに配慮しています。

乳幼児期の子どもたちは大人に比べて、汗をかいて体温を調節するのが難しいといわれています。汗腺は乳幼児期に汗をかくことで発達します。エアコンのきいた部屋ですっと過ごしていると、汗腺が発達しません。熱中症に強い身体作りのためには汗をかく体験が必要なので、ご家庭でも冷やしすぎには気をつけましょう。

先日、岡山県から講師の方に来ていただき、おひさま会主催の「木のおもちゃで遊ぼう、科学あそびを楽しもう」の会を行いました。子どもたちは、いろいろな木のおもちゃやあそびを選び、目を輝かせて遊びました。中でも数十本の柱と横材を組み合わせて、ジャングルジムを作る活動は、大人も子どもも夢中で取り組んでいました。ホールの中には、「コンコン、カンカン」という木槌でクサビを打つ音が広がっていました。ジャングルジムがだんだん出来上がっていき、一段目、二段目と登りながら上のほうにクサビを打つ子もいて、その姿は「やりたい、たのしい」という思いが溢れていました。片手に木槌、もう片方の手にクサビを握り、どんな風に持つと作業しやすいかな

など考え、試しながらクサビを打ち込んでいました。

3歳児は4、5歳児がやっているのを見ながら「やってみたい」という気持ちが湧き、わくわくしながらチャレンジしている表情が印象的でした。「見よう見まねで」というのは、こういうことなのだと感じました。子どもたちは、あそびや生活の中で物事に向き合うとき、「みる」ことでより意欲的に物事に関わろうとしたり、主体的に取り組んでいます。その中で、一人ひとりの子どもが遊びながら学んでいることを実感しています。

また、あそびが終了した後、講師の方を囲んで、お手伝いしていただいた保護者の方と一緒に当日のあそびを振り返りました。その中で、異年齢の友だちとの関わりの中で、お互いに刺激し合うことが、子どもの成長につながっているのだと感じられた保護者の方がいました。いろいろな人との関わりの中で、うれしい気持ち、困るなという気持ちなど、様々な感情を経験します。乳児クラスのお子さんや自分からお話したり表現することが少ないおさんは、配信した写真やドキュメンテーション、エントランスで流している動画などを見ていただき、お子さんとの会話のきっかけにいただければと思います。ご家庭でお子さんの思いを聞きながら大人も自分の思いを伝える中で、自分以外の人の気持ちに気づくことができるようになると思います。お子さんの話に耳を傾けてみてください。

8月6日には78回目の「平和を祈念する日」を迎えます。日常の生活の中で命について考える機会を持ちたいと思います。身近な生き物に触れることや育てている夏野菜の生長や、枯れていく様子を見ることで命を感じることができると思います。

園長



なつあそび

みず!みず!
いろいろなみずがあるね

なつまつり
たのしみだね

地域のおばちゃんに
「坂町音頭」を教えてもらったよ

ちょうちんづくり
みんな違って みんないい

やぐら作り
カト知恵を合わせて

木のおもちゃであそぼう
科学あそび

お泊り保育 子どもの声、親の思い
アンケートより

7月7日・8日、一泊二日で広島市野外活動センターに行ってきました。

家族から離れ、初めての場所で過ごすことは、子どもたちにとってもご家族の方にとっても貴重な体験であったと思います。お泊り保育を終えた子どもたちは家族の方への思いや一人でできた達成感や友だちと一緒に過ごし、いろいろな経験をした満足感を味わったことで自信につながったことと思います。

★子どもたちの印象に残ったことは?

- ・みんなで大きなお風呂に入ったこと
- ・すいこうや坂みみょうのお友だちができたこと
- ・芝すべりが楽しかった
- ・キャンプファイヤーはできなかったけど花火を見たこと
- ・お弁当と夕食のカレーライスがおいしかった

★家族の様子、思いは?

- ・家がとても静かで寂しかったが、きつずノートで配信があり、安心して過ごせた。
- ・いないと寂しいねと家族で話し、わが子の存在の大きさを改めて実感した。
- ・家族がそろうことのうれしさや大切さのような気持ちを改めて感じる事ができたように思う。

